

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【算数科】

1. 対象 特別支援学級(自閉・情緒)6年生

本学級に在籍している児童は、情緒障害のある6年生である。聞くことに関しては、音楽の授業で音程をすぐに覚えるなどは得意であるが、その他の活動において説明を口頭でされても1度では理解できなかったり、興味のないことは全く聞いていないこともある。話すことに関しては、「はい・いいえ」や単語で答えられる質問には答えられるようになってきたが、理由を問われる質問には答えられないことが多い。書くことに関しては、学年が上がるにつれて文字の書くスピードも上がり書ける文字も増えてきたが、強い苦手意識があるため、普段の学習では場面を絞って書く活動に取り組むようにしている。同じように読むことに関して、強い苦手意識があるため、普段の学習では詩や絵本などの短い文章の音読で、読む練習を行っている。

2. 単元名 「 レシピ本を作ろう！第2弾！ 」（全15時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	動画や写真を見て、調理の様子（手順・使う物・量など）を言葉や動作で答えたり、適切な表現でレシピ本に書き表したりすることができる。
思考力，判断力，表現力等	教師の問いかけ、動画や写真などから気付いたことや読み取ったことを簡単な言葉や単語、動作で表すことができる。
学びに向かう力，人間性等	レシピ本を作る中で、言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、教師とのやり取りを楽しんだり、適切な言葉を使おうとしたりする。

4. 言語活動

【聞くこと・話すこと】

・教師とのやり取りを通して、動画から読み取ったことを言葉や動作で答える。

【書くこと】

・表現カードの表現を参考にしながら、レシピ本に書き込んでいく。

【読むこと】

・自分で書いたレシピを声に出して読み返し、おかしなところがないか確認する。

5. 本時の目標

動画や写真を見たり、それらを表現カードと見比べたりすることを通して、気付いたことを適切な表現でレシピ本に書き表すことができる。

5. 授業展開

解決したい課題や問い

「もっとくわしいレシピ本を作ろう」

・〇〇を作るには、まず何が必要かな。

・「中火」ってどんな火かな。

・「いっぱい」ってどれくらいのことかな。

・実際に塩を「少々」取ってみよう。

・この動作は何と言ったら伝わるのかな。

・この道具は何という名前かな。

・この写真を見て、「〇〇を〇〇で〇〇する。」の〇〇に入る言葉は分かるかな。

・動画で使っていた〇〇の量は少しだったけど、あなたはどのくらい使いたいか。

考えるための材料

- ①調理動画
- ②物の量や状態を分かりやすく表した、表現カード
- ③自分の考えや感想を書き込む、吹き出しカード
- ④実際の調理道具や調味料

想定される活動

- ①児童の作りたい料理の調理動画を用意することで、意欲的に見ることができる。
- ①動画から動作や分量、必要な物などを読み取る。
- ②児童の語彙を増やすためにも、物の量や状態を分かりやすく表現したカードを用意し、動画と同じ量や状態のものを選ぶ。
- ③前回のレシピ本作りでは、自分の欲しい量と動画の量とを混同してしまったため、区別できるように吹き出しカードを用意し、書き込めるようにする。
- ④実際の道具を使って、調理過程の動作をしたり調味料を取ってみたいりする。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【対話の方法】（グループ形態、時間設定、留意事項など）

- ・一人学級であるため、基本的には教師とのやり取りを中心に行う。
- ・児童とのやり取りでは、なるべく児童から言葉が出るような支援を行い、表現カード等を利用して、教師が察して答えてしまうことが多くならないようにする。

【思考のプロセス】

- ・レシピ本（第2弾）を作ることを発表することで、前回一度作ったレシピ本を学習を思い出したり、レシピ本を見返したりして意欲を高める。
- ・前回のレシピ本よりもレベルアップしたレシピ本にするために、前回のレシピの中で不明瞭な箇所を取り上げ、「よりくわしく」書く必要性をもてるようにする。
- ・「初めに何のレシピがいいかな。」という問いかけに、「〇〇がいいです！」と好きな食べ物の名前を上げる。
- ・調理動画や写真を見ながら、必要な工程を言葉にしたり、動作を真似て確認したりする。
- ・出来上がったレシピは本にし、新しいレシピ作りを繰り返すことで活動に慣れる。
- ・最後に隣のクラスにレシピ本を見せ、感想をもらうなどし、達成感を実感できるようにする。

学習の成果（予想される児童のあらわれ）

- ・前回のレシピの不明瞭さに気付くことができる。
- ・作りたいレシピを自分で選ぶことができる。
- ・調理に必要な道具や材料を答えることができる。
- ・分量や調理の仕方など、表現カードを使いながら適切に表現することができる。
- ・動作を真似たり実際の調味料で量を確認したりすることで、より正確に言葉を意識することができる。
- ・動画の様子と自分が作りたい、欲しい、使いたい量とを吹き出しカードを使い、区別して認識することができる。
- ・完成したレシピ本を友達に見せ、感想をもらうことで学習への達成感を実感することができる。